

ひとりひとりのしあわせと、  
生きる喜びを、いのちの輝きを  
ささえたい。

# きらめき

VOL. 71

## 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 設立20周年記念事業

「きらめき」  
誌上で振り返る

### 未来のケアマネの姿 大牟田らしさとは ～20年の歩みとこれから～

令和2年1月25日(土)、大牟田文化会館 小ホールにおいて大牟田市介護支援専門員連絡協議会設立20周年記念事業が開催されました。

はじめに、当協議会の安藤会長が「人工知能（AI）が、自動車の安全機能など色々な分野で取り入れられてきていますが、在宅医療・在宅介護、施設介護分野に、どのような形で活用されていくのか不透明な部分があります。AIに取り込まれた基本情報と利用者・家族からの直接的な情報の中から、ケアマネは、その人の内面に深く深く潜む想いや意思を的確に導き出して、『その人らしい生活』が可能なようにしっかりと支援していく事が必要と考えます」と挨拶されました。つづいて、御来賓の皆様を代表して、大牟田市副市長 甲斐様、大牟田医師会理事 松尾様、大牟田市介護サービス事業者協議会会長 井田様より、お祝いと励ましの言葉を頂きました。

特別講演では、佐賀大学医学部名誉教授・久留米リハビリテーション病院福祉施設開設準備室長の齊場三十四様より、「個々性の尊重と尊厳さ共有する共生社会を求めて」と題して、社会保障制度の変遷の中で影響を受ける当事者と介護支援専門員の課題とこれからの在り方について提言されました。

齊場先生は、「社会保障制度は、2001年から始まった介護保険制度で、65歳以上の人すべてが介護保険制度の対象に組み込まれ、“福祉が介護になり”、まだ働ける、役割を持てるはずの人が介護保険制度を利用することで、要介護者になってしまっている。その中で、介護保険の法的優位の本質や利用者へ向けられたラベリングの課題がある。」と警鐘を鳴らされました。国の政策をうのみにするのではなく、「これでいいのか」という視点を持って考えること、当事者が希望する生活が出来るよう共生すること、行政を含めた多職種連携が必要であると改めて思いました。

私たち介護支援専門員に求められる姿については、「ひと」として大事な人生の途上で、疾患・障害を抱えなければならなくなった人への、人生の再構築のためのパートナーとしての意識が大切だと述べられました。そのためにはコミュニケーションスキルを身につけていく必要があると感じました。

AI化への警告として、「人間には心がある。AIでは心の代わりは出来ない。人間の強みは心に寄り添えること。介護支援専門員も、利用者に寄り添い、一緒に悩み、一緒に考える存在であってほしい。」と私たちのあるべき姿を示してくれました。

齊場先生ご自身が障害者であり、今は介護保険対象となる年齢になられて感じられていることについても話をされました。ケアマネの視点だけでなく、利用者の視点をもつ事も大事である事を改めて気付きました。人権・ノーマリゼーションについて考えさせられる内容のお話も多くされ、とても貴重な時間となりました。



# 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 設立20周年記念事業

## 啓発劇

### 「AIとケアマネジャー ～あるべき姿を目指して～」



AIをテーマに「おおむたケアマネ座」による啓発劇が行われました。

劇団員の構成は、当協議会の会員のケアマネジャーの9名と大牟田市役所職員1名でした。劇の脚本は大牟田市建築住宅課の今福信幸さん、演出はよかよかネットワークの永江次郎さんで、設立10周年記念事業の好評だった啓発劇「ケアマネってすばりしか仕事バイ」の脚本・演出だったお二人が今回もタッグを組みました。

令和元年7月16日、設立20周年記念事業の第4回実行員会の時に、劇団の結成式が

あり、劇団員同士が初顔合わせをしました。9月19日には、劇団員そろっての初稽古。脚本の読み合わせから始まりました。11月29日には決起集会を開き、本番当日に向けてのギアを1段階上げました。劇団員が集まって行う稽古以外にも、衣装の打ち合わせやセリフについてのセッション、ボイスレコーダーを使ってのセリフ覚えなど、劇団員一人一人が個別に練習を重ねていきました。体調管理にも気を付け、全員元気に本番当日を迎えました。

啓発劇の内容を簡単に紹介します。場面は、少し未来の居宅介護支援事業所。少しの情報を入力するだけで、ケアプランを簡単に作ってくれるケアマネロボットが働いています。それに全面的に頼りながら業務を遂行するケアマネとそれに疑問をもつケアマネがいます。ケアマネロボットが巻き起こすトラブルに振り回されながらも、やがて「寄り添うこと」や「心のつながり」など、ロボットにはできないことを、自分たちケアマネはやっているんだという気付きが生まれます。最後は、「AIを上手に活用しながらケアマネジャーの誇りを忘れず、本人や家族に寄り添ったケアをしていこう！」と力強い言葉で終わりました。

内容もさることながら、劇団員の方々の演技力も素晴らしく、コミカルな部分とシリアスな部分があまく混ざり、とても楽しく見ることができ、考えさせられた啓発劇でした。ケアマネ連協10周年の時の劇内容も引き継がれていたようで、前回の啓発劇を懐かしく思い出されながら見られた方は少なくなかったのではないのでしょうか。

煩雑な業務を少しでも整理できるツールとしてAIは、とても便利なものです。しかし、便利さに頼りきりにならず、ケアマネジャーとして、寄り添うことや心のつながりなどを大切にしていきたいと感じた劇でした。



劇団「おおむたケアマネ座」

## シンポジウム

# 「ケアマネジャーの魅力と成長 ～20年の振り返りと未来のケアマネジャーに期待するもの～」

シンポジウムでは、座長を天の杜合同会社代表の岡山隆二氏、コメンテーターに特別講演で講師を務められていた齊場三十四氏、シンポジストに福岡県介護支援専門員協会副会長の江上文幸氏、大牟田市保健福祉部福祉課主査の梅本政隆氏、大牟田市介護支援専門員連絡協議会の久富芳子氏（社会保険大牟田天領病院ケアプランセンター管理者）をお招きし、「ケアマネジャーの魅力と成長」～20年の振り返りと未来のケアマネジャーに期待するもの～をテーマに介護支援専門員への提言や期待すること等を語って頂きました。

## 1. 介護支援専門員として歩みを振り返って、評価できること

- ・介護支援専門員は、介護保険制度の要であり、その役割を十分果たしている。介護保険制度運営においても、欠かせない存在となっている。
- ・利用者・家族からも自宅で生活するうえで必要不可欠な存在として認知されてきた。利用者や家族に寄り添った支援ができていると思う。
- ・利用者が望む暮らしの実現にむけたケアマネジメントの在り方を目指し続けている。「相談支援」を住民の身近な存在にした事も評価できる。



## 2. 介護支援専門員にとって一番の課題とは

- ・介護支援専門員に限った事ではないが、人材不足である。介護支援専門員の受験者・合格率も年々減少してきている。介護支援専門員になりたい人が減ってきていると思われる。
- ・地域包括ケアシステム～地域共生社会の実現に向けての介護支援専門員の役割（専門性について）が十分機能していないのではないかと。
- ・多様性のある個々の利用者への理解と個別ニーズへの手当が、介護支援専門員によって差がある。それは介護支援専門員の専門性の習熟と援助専門職としての成長の差であり、基礎的な部分の学びと経験の積み重ねが必要である。
- ・介護支援専門員は高齢者等やその家族にとって、どのような存在になることを目指していくのか。介護保険制度利用のために必要な存在なのか、それとも人生において欠かせない存在となるのか。「相談支援」をどのように捉えていくのかによって、介護支援専門員の在り方が変わってくる。

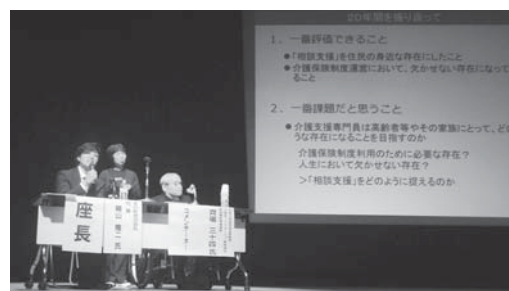
## 3. 今後の介護支援専門員にとって1番必要だと思うこと

- ・自立（律）支援に資するケアマネジメントの共通認識をもつ必要がある。
- ・どの職種にも言える事であるが、繋がるということ（多職種連携）が重要ではないかと。
- ・課題にも拳がっていた事だが、人材不足を解消していくためには、介護支援専門員の魅力についての情報発信と仲間づくりが必要である。また、介護支援専門員がお互いに高め合える場があれば、介護支援専門員同士の繋がりも出てくる。
- ・高齢者等や家族と「一緒に悩み」「一緒に考える」ような関わりをもつ事、「足りない部分を補う」視点だけでなく「幸せにつがる」ような利用者寄り添った視点でのマネジメント力も必要。

以上のようなご意見を頂き、これまでの大牟田市介護支援専門員連絡協議会の20年の歩みの振り返りが出来、また次の10年に向かって目指すべきものが見えてきました。

最後に齊場氏よりシンポジウムのまとめの言葉を頂きました。

「行政職員も一緒に考え、共に未来に向けて頑張っていきましょう！」



# シリーズ・実践事例

支援は順調であるが課題が残るAさんの支援について



## 【事例の概要】

H23年 F病院から、生活面で心配なAさんの紹介が居宅にあった。Aさんは、ADL/IADL共に自立され、認知症はさほどないと思われた。宗教にのめり込んでいたり家の中のゴミが散乱したり、食生活も心配されたが、本人は困っておられなかった。何度訪問しても世間話には応じられるものの、生活は困っていないとサービスの話は聞き入れられなかった。F病院の外来リハに週2回通っておられたので見守りを継続してもらい、必要時に居宅に連絡をして頂く形の支援となっていたと居宅のCMから聞いた。

Aさんは、H28年4月30日に近所で倒れ救急車で搬送、心筋梗塞と診断されている。急性期病院では、手術の必要性を説明されるが、『まんまんしゃんがいるから大丈夫』と拒否、内服治療のみで経過する。入院中は「まんまんしゃんが守ってくれるから薬も飲まなくていい。車の運転も大丈夫だ」との言動から退院後の支援がうまく導入出来るのか心配された。入院中に「要介護1」の認定があり、居宅から小規模多機能ホームが関わるようになり、その後の支援はうまくいっている。

## 【基本情報・急性期病院退院時情報】

Aさん 男性 85歳 要介護1  
 診断名 後壁心筋梗塞・心不全（H28年4月30日G病院入院）  
 既往歴 H23年脳梗塞 E病院からF病院へ転院  
 F病院に通院するようになる  
 ADL 移動 病棟内自立歩行  
 排泄 着衣 食事（減塩1600カロリー）  
 自立  
 入浴 5月中旬よりシャワー 5月下旬より入浴可 自立  
 IADL 金銭管理 銀行に連れて行く必要あり  
 （自分のバックに札束を入れている）  
 内服管理 一部介助  
 認知機能 やや低下（長谷川28点） 電話可 支  
 払い可  
 難聴はあるが、話は理解できる

経済状況 厚生年金

入院時の治療経過

入院時バルーン治療拒否、点滴施行、利尿剤投与。5月11日胸水減少で心臓リハビリ開始となる。随時内服調整 入浴の許可もあり、退院後のサポート体制が整えば退院可能となる。主治医より「心不全は改善しているが、内服を確実に服用しなければ直ぐに再燃する。また運動負荷は平坦歩行のみで車の運転はしないように」と説明されている。退院後、確実な内服・減塩食・体重管理・健康管理が必要とされた。

## 【生活歴・家族歴】

C市出身5人兄弟の4番目で、現在は直ぐ上の兄とAさんが存命。C市の企業の現場で定年まで勤めている。結婚の年齢は不明であるが、2人の男児をもっている。夫婦で信仰に熱心であったが、妻は約25年前45歳で他界している。長男は子どもの時に他界。次男（50代）は若い時に精神病を発症し以来病院に入院中。

昔から兄との関係は悪く、Aさんは酒を飲んで兄宅に文句を言いに来ていた。H23年当時、兄の子（甥）がキーパーソンであったが、酒を飲んで何かを盗ったと言いがかりつけるので一切かかわりを持ちたくなかったと話されていた。今回も6月1日のG病院での面談で関わりを拒否された。救急病院退院前に、近所に住む別の甥が「何かあった時だけ」という約束で連絡をしつづけて承された。

## 【支援経過】

H28.4.30 G病院へ 救急搬送  
 H28.6.1 G病院でケース会議  
 参加者 G病院病棟Ns・MSW F病院外来師長・MSW  
 甥夫婦（兄の子） 居宅CM  
 検討した内容  
 ① 退院後の支援の必要性・・・介護保険の申請  
 要介護1が出れば定期巡回随時対応型訪問介護、または小規模多機能型

- 居宅介護等の利用を検討することとなる。
- H28.6.8 認定調査の立ち合い。Aさんは6月1日のケース会議と同じ話を繰り返される。G病院では、在宅のサービスが整うまで回復期病棟への転棟で対応可能。
- H28.6.30 要介護1の結果を踏まえG病院でケース会議  
事前にG病院・F病院・居宅と検討し、小規模多機能型居宅事業所に関わってもらったこととなっていた。  
参加者 G病院病棟Ns・MSW 小規模管理者・CM 居宅CM  
検討内容  
① 家の状況把握のため、退院前訪問を行う⇒環境整備の必要性を把握する  
② サービス内容の検討  
・内服管理 食事の確保 体重管理、入浴支援を小規模に依頼  
・疾患の管理については、本人希望でF病院利用となる  
③ キーパーソンについて⇒本人希望で、近所の別の甥にG病院から依頼してくれることとなる  
Aさんは支援者が自分のためにいろいろと考えてくれて嬉しいと話す。  
サービスが落ち着くまで、以前から関わりのある居宅CMにしばらく関わってもらったこととなる。
- H28.7.5 退院前訪問 G病院Ns F病院外来師長 小規模管理者 居宅CM  
① 家の中はゴミ屋敷となっている⇒自費にて掃除が必要  
② 市内の甥に救急病院Nsがキーパーソンの依頼をされしづしづ了解となる
- ③ 内服管理の仕方について、救急病院・F病院で打ち合わせ  
④ 鍵の預かりについての検討が必要  
Aさんは退院できる嬉しさと、これだけの人が関わってくれることに対して感謝の言葉が出て来る。自費で掃除が必要であることも了解される。
- H28.7.13 G病院が手配してくれた清掃業者・Aさん・居宅CMで自宅訪問。業者に見積りを依頼する。掃除の費用に関してはAさん了解。片づけの業者に来てもらうことも了解される。冷蔵庫が壊れていて使用できないことが解る。
- H28.7.19 家の片づけ業者に入ってもらった（小規模・居宅CM対応）エアコンの調子が悪いことが解る
- H28.7.27 エアコンの清掃業者が入る。（Aさん小規模管理者・居宅CMで対応、居宅CM支援終了）  
Aさんと一緒に行き、体重計・冷蔵庫を購入する。  
小規模管理者と本人で鍵について検討、対策が決定する。  
G病院MSWの話によると今回の退院までの流れの中で、いろいろな人に関わってもらったAさんが心を開いて信頼してくれるようになった。支援をしてもらわないと在宅生活がうまくいかないことも理解し始めている。「このまま病院にいてもいい」といった言動までできていたとのことだった。
- H28.7.29 ケース会議・担当者会議 G病院にて  
参加者：Aさん G病院病棟Ns・MSW 小規模多機能施設管理者・CM  
支援の方針  
① 内服確認(朝・夕) ② 食事の提供  
③ 体重の管理 ④ 清潔保持  
⑤ 定期受診 ⑥ 鍵の確認  
具体的支援について  
小規模・・・一日3回訪問 1/週通いにて入浴  
朝・夕内服確認 昼体重測定 昼・夕配食 朝食の買い物のために外出支援  
F病院・・・1/2週受診 受診の送迎

## 2週間分の薬のセット

- H28.7.31 G病院退院となり、小規模で支援していく。
- H28.8.1 小規模のスタッフが自宅を訪問するとAさんの応答がない。朝は元気にされていた。約束の場所に勝手口鍵があるが、手前の扉に鍵をかけられていたためそこまで入れない。テレビの音が大きく聞こえ、中にいる様子で身体状況が心配された。包括にも相談し駆けつけてきてくれる。  
家の周りの確認、電話、呼び出しで何度も呼びかけるが応答なく、警察・消防に連絡する。救急車到着し、中に入るとAさんは、ベットで休まっていた。テレビの音量が大きく電話・呼び出し音が聞こえなかった様子。紛失している玄関の鍵を作り直すことを提案。市内の甥・近隣の住人・公民館長が心配してきてくれる。
- H28.8.4 サービスは順調である。玄関鍵の取り換えでき鍵を所定の場所に置くことが出来た。通いで入浴もできている。
- H28.8.23 自宅夕方訪問  
Aさんとの会話の中で
- ・入院中は施設もいいと思ったが、やっぱり家が良い
  - ・食事は美味しい。服薬は確認のみで内服できている
  - ・車は業者に持ってきてもらった。一度だけ運転して宗教団体にお金を払いに行った。（お金を払うと身体の調子が良くなる。体調は日によって変わる。まんまんしゃんがいるから）
  - ・息子の事が心配「親が亡くなった後の息子さんが困らないようにした方が良いのでは」と話すと「そげん」と納得される
- H28.8.27 今後の課題についてケース会議を開催することとなる。  
参加者 外来看護師（主治医アドバイス） F病院MSW 小規模多機能管理者・CM
- ① 疾患について
- ・心臓の状況は検査の結果、いつどうなってもおかしくない状態である

- ・夜間の胸苦・夜間の排尿回数が増えていないか本人に聞き取り観察が必要
- ・内服管理が重要で有り、心臓の状況から車の運転は避けた方が良い  
（以上書面で主治医の意見・アドバイス）

## ② 小規模からの報告

- ・現在1日2回の訪問で内服確認、うまくいっている
- ・体重も1日1回11時訪問時に測定しているが増量は見られない
- ・朝食はパンなど小規模が購入。昼食夕食を小規模から配食している
- ・週1回のデイで入浴されている。疲れたときは1時間ほどデイで休憩される

## ③ 今後の課題

- ・車の運転について再度リスクを説明する（免許証の有効期間、車の傷など確認）  
車の保険、車検の確認をする。
  - ・地域との関係作りのため小規模から挨拶などに回り、協力を得られるように体制作りをする。
  - ・本人はどのようなときに宗教に頼りたいのか確認し、小規模が関わられるか検討する
- \* 以前のAさんの生活や性格を考えると、身体状況が落ち着くとサービス拒否が出てくる可能性が高い

## ＜考察＞

今回のケース会議で上記のことを共有し、今後の方針に活かし動き始めることができた。

Aさんは、こだわりが強くなかなか支援が難しい方であったが、Aさんが生活しやすいように話し合い、支援していく中で信頼関係を構築することができた。しかし、これまでのAさんの経過を考えると、身体状況が落ち着いてくるとサービスの拒否が始まるのではないかと懸念される。そのような状況になった時、Aさんがどのサービスを拒否し、どのサービスを受け入れられるのか確認しながら、小規模多機能施設の支援にこだわらない柔軟な支援や対応が必要になると思われる。今後のAさんの状況の変化に添って、医療・居宅・包括との連携を図りながら支援をしていく必要があると思っている。

# リレー随想 No.52



さんぽの古賀さんからリレーバトンを渡してもらった永田ケアプランの堀川好絵と申します。広報誌の記事を書くなんて緊張しますし、何か照れ臭いのでどうぞ斜め読みでよろしくお願い致します。今までのリレー随想を読んでみて、とても個性ある文筆で楽しみに読ませてもらっていましたが、いざ自分の番となると、さて何を書こうかと悩み、締め切り日が迫ってきている中で慌ててパソコンに向かっている次第です。(;-^A

前走者の古賀さんから私の紹介を「Luna sea」が好きと書いてもらった事から話をしていこうかなと思います。10代から熱烈なファンでして、2～3年に一度は福岡にライブに出かける事が楽しみでストレス発散でもあります。この記事が皆さんが読まれている頃には多分、今年のライブが終わり、意気消沈しているでしょう。

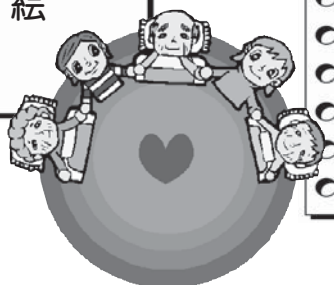
私が担当している方の中でも、氷川きよしのファンの方がおられて、80歳過ぎてもコンサートに行く事を楽しみにされています。氷川きよしの話をされている時の表情はとても生き生きとされ、若さすら感じる事があり、それが元気の源なのでしょう。いくつになっても楽しみがあったり、その目標があったりする事はいいものだと思います。計画書を作成する上で、元気な生活を続けてライブに行くことを目標と提案した事もありました。その人らしく生きていく、いきがいを持つことの大事さだったり、その思いの実現に向けて利用者さんの声に耳を傾けつつ、一緒に考え思いを馳せる事が必要と考えます。

拙い内容になりましたが、最後に皆さんもストレス発散という別の意味で楽しみを持つ事も大事なので、仕事に励み、勤しみ、素直に過ごしていきましょうね。

では、次走者の大牟田市社会福祉協議会の松石智美さんにバトンを渡します。快く、バトンを受けて頂き、ありがとうございます。

○ 永田病院ケアプランサービス  
○  
○  
○ 堀川好絵  
○  
○

次回は……  
○ 大牟田市社会福祉協議会  
○  
○ 松石智美さん  
○



です。



# 大牟田市からのお知らせ

福祉課（問合せ）☎41-2683

## 「世界自閉症啓発デーinおおむた」

～つなぐ つなげる つながる～「知ってほしい ぼくのこと わたしのこと」

4月2日は国連の「世界自閉症啓発デー」、そして4月2日から8日までを「発達障がい啓発週間」とされています。4月2日には世界的に「Light it up Blue（ライトイットアップブルー）」と呼ばれる、ランドマーク（その地の象徴的な建物等）を青い光でライトアップする活動が広く行われております。

本市においても、今回で第3回目を迎えることになりました。市民の皆さんに広く自閉症・発達障害のことを知ってもらいイベントを開催しますので、ぜひ、お越しください。

記

### 1. イルミネーション「LIGHT IT UP BLUE おおむた」

4月2日（火）～4月8日（月）会場：大牟田市役所本庁舎  
（点灯式：2日（木）18：50～19：30）

世界自閉症啓発デーでは、世界中を青い光で包むというイベントが行われています。大牟田市でも、青い光で、庁舎等を光らせ、市民に広く自閉症のことを知ってもらい契機としたいと思っております。



点灯式：4月2日（木）18：50～ 大牟田市役所前広場

第一部（18：50～19：00）：

青いケミカルライトを全員で持ち、点灯と同時に青い光に包まれる企画を行います。

第二部（19：05～19：30）：

当事者家族による体験の話や専門職による自閉症の障害特性についての説明など、自閉症についての理解を深めるための啓発式典を行います。



※ ぜひ、点灯式にご来場の際には、テーマにちなみ、靴やネクタイ等どこかに「青」の入ったものを身に付けてご来場ください。（身に付けなくても、ご来場いただけます。）

### 2. 見てほしい ぼくのわたしの作品展

4月2日（火）～4月8日（月）会場：大牟田市役所本庁舎玄関ロビー（開庁時間）

庁舎の玄関ロビーにおいて、自閉症の方がつくった作品・写真を展示します。また自閉症及び発達障害の理解を促す展示も行います。

【連絡先】「世界自閉症啓発デーinおおむた」実行委員会 代表 古池 亮子（TEL:0944-51-3711）

### 【編集後記】

令和2年1月25日（土）に開催されました、大牟田市CM連協20周年記念事業は大盛況でしたね。あの団結力！大牟田でケアマネをしていて良かったと実感しています。次の30周年のとき、私は何をしているのか？笑

また、昨年末から発生した新型コロナウイルス感染症が、指定感染症に定められましたね。国内でも感染が広がっています。手洗い・アルコール消毒・咳エチケットで予防していきましょう。

この冬、益々大きくなって息切れしている私の身体。少し体力をつけないと・・・と感じている今日この頃。春の日差しで眠たくもなりますが・・・さしあたってはラジオ体操始めました(^\_^) それからの・・・ダイエット♥ 皆さんは今年どこを目指しますか？

琴子

編集・発行 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 広報事業部会  
事務局 大牟田市福祉課総合相談担当（TEL:0944-41-2672 FAX:0944-41-2662）  
大牟田市介護支援専門員連絡協議会ホームページ <http://omuta-cm.net>